環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

キックオフミーティング発表資料

活動団体名：小田原市
活動地域　：神奈川県小田原市

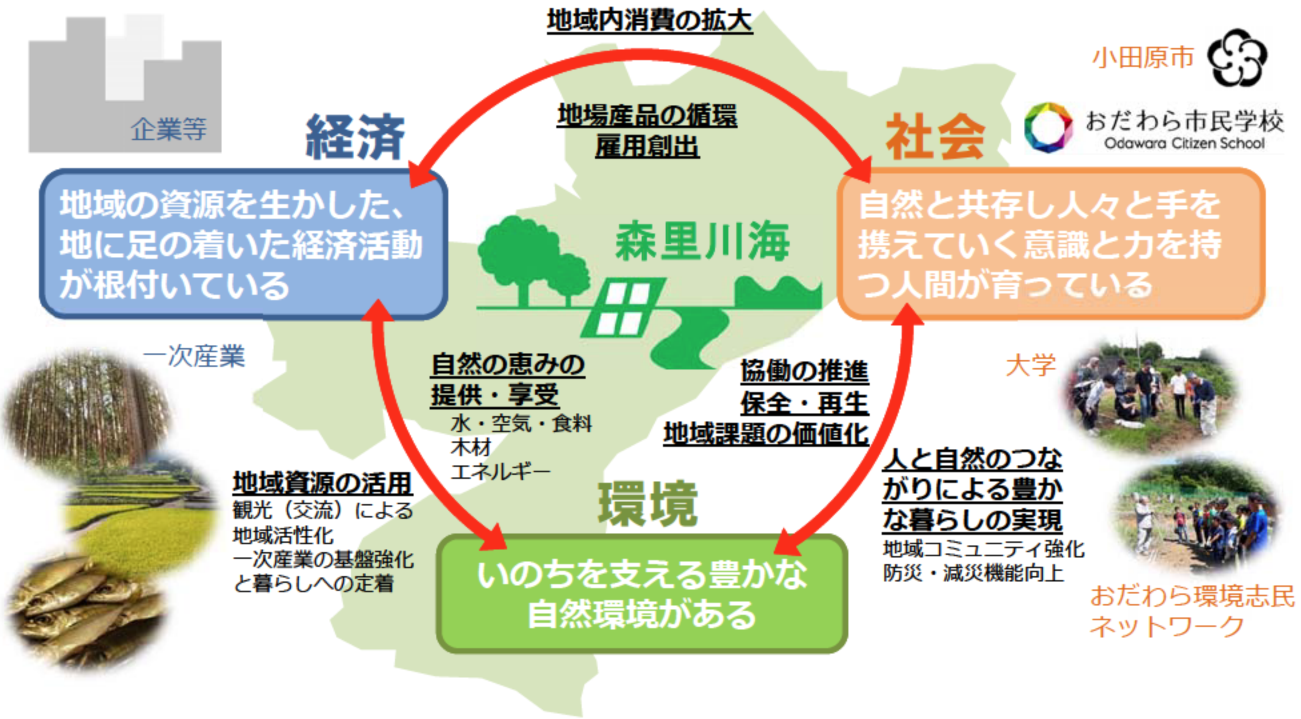
活動におけるテーマ

課題解決活動を価値化し、人と資金の循環を生み出す
”寄気イノベーション”

寄気・・・様々なステークホルダーが、小田原の伝統工芸である寄木細工のように気持ちを寄せ合いながら共同体を形成すること。

地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿

地域資源を磨き上げ、より豊かな状態で次世代へと受け継ぎ、生かしきる地域



SDGs未来都市「人と人とのつながりによる『いのちを守り育てる地域自給圏』の創造」に寄与

地域の現状と課題

多彩な自然環境や地場産業、歴史・文化、市民力がオールインワンに揃う小田原
その豊かさを持続可能なものにする仕組みが必要

地域の現状

■ **暮らしの基盤となる恵まれた環境を有するまち**

・森里川海がコンパクトにまとまった自然地形
・温暖で穏やかな気候、豊富な水

・木工業や水産業等の地場産業の発展
・歴史に培われた城下町、宿場町の地域文化の創出
・都市近郊の交通の要衝
・自然、産業、歴史・文化オールインワンのまち
・官民協働によるエネルギーの地域自給の取組
・地域を守り育てる活発な市民の活動

■ **多様な課題に対する先導的取組の実践**

・環境活動団体等の中間支援組織
　「おだわら環境志民ネットワーク」設立
・環境省 地域循環共生圏構築検討業務
　「小田原森里川海インキュベーション事業"寄気"」実施

・「地方再生コンパクトシティのモデル都市」選定
・「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」選定

地域の課題

・人口減少
・少子高齢化
・ライフスタイルの変化

・一次産業の担い手不足
・身近な環境資源の劣化
・自然環境との接点の希薄化

【具体的な課題】
・耕作放棄地増加
・鳥獣被害増加
・森林や里山の荒廃 等

地域循環共生圏を活用して解決すべき課題

■ 地域課題を解決する活動への強力な支援・推進
■ 域内外からの人材の獲得
■ 資金循環の仕組みの構築

地域循環共生圏を活用して目指す地域の実現のために

課題解決活動を経済的・社会的に価値化し、地域エネルギーを活かして人・資金を循環させる

今後の事業取組予定

小田原版地域循環共生圏のための主体と仕組みを構築

■コンソーシアムによる地域課題の解決を価値化するスキームの構築

- 自然環境や農林水産業等における課題の解決に資する活動コンテンツの提供・体系化
- 専門的知見を有する大学や商工会議所、金融機関等との連携による課題解決活動の経済的・社会的価値化

■地域エネルギー事業等による人・資金循環の仕組みづくり

- 地域課題の解決に資する活動コンテンツを付加した電力の販売による、関係人口及び財源の確保
- 脱炭素型地域交通による人の誘導

■新たな人材確保とおだわら環境志民ネットワークの組織強化

- 森里川海に関わる団体・個人の取組を連携・拡充するために構築した「おだわら環境志民ネットワーク」を本事業の運営主体としてさらに強化
- おだわら市民学校を通じた担い手発掘
- 酒匂川を水源として利用する都市住民（川崎市等）の取り込み

【必要となるもの】

- 経済的・社会的価値の創出により、環境分野から課題解決に資するビジネスモデル
- 地域エネルギーを介した人と資金の循環を促進させるためのニーズ分析や経営戦略

スケジュール（令和元年度）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定	◆請負業者決定 ◆事務局設置 ◆キックオフミーティング			◆現地意見交換会（10月～12月）		◆中間報告書提出期限		◆成果発表会 ◆シンポジウム	◆活動団体成果報告書提出
ビジョンの策定		◆地域コンソーシアムキックオフ ※ビジョンの共有、役割分担	◆ニーズ調査（9月～10月）	◆分科会（運営形態）→	◆分科会（メニューシステム）→ ◆分科会（その他支援システム）→	◆中間まとめ →		◆次年度事業計画決定	
ステークホルダーの巻き込み	想定されるステークホルダーとの打ち合わせ（7月～8月） おだわら市民学校（7月～2月）		・分科会は各ステージ毎に実施予定（回数は状況に応じて） ・各ステージによってメンバー構成を変えられる ・コアメンバーは情報共有を図りながら、検討を進める 脱炭素型交通事業（9月～3月）						

【参考】令和２年度の予定　上半期：事業試験実施、課題抽出及び修正
下半期：事業の本格実施、おだわら環境志民ネットワークの体制構築